

久留米入城400年記念
京町校区の見どころ知りどころ
第4回 京隈侍屋敷遺跡

遺跡とは、人々の暮らしの痕跡が土に埋もれている場所のことをいいます。

連載第4回は「京隈侍屋敷遺跡(きよのくまさむらいやしきいせき)」をテーマに、久留米市が江戸時代の京隈小路の範囲で行ってきた発掘調査について紹介します。

話し手の熊代さん(市文化財保護課)は埋蔵文化財担当として、これまで市内36か所で発掘調査を行ってきました。その経験から、東日本大震災の4年後には、宮城県山元町に派遣され、復旧・復興支援にも携わりました。

Q. 「京隈侍屋敷遺跡」では、これまでどのくらい発掘調査が行われた?

(熊代) 平成3年(1991)からの約30年間で、32か所を数えます。調査のきっかけには、JR久留米駅の新幹線開業、坂本繁二郎生

家の整備、京町小学校の新校舎建築などが挙げられます。

Q. どのようなものが出てきた?

(熊代) 出土品には、江戸時代に食事に使われた陶磁器や漆器、下駄やキセル、ままごと道具の食器や幕末の鉄砲玉などもあります。

遺構では、道路や屋敷の境、井戸や穴蔵(地下の倉庫)、トイレが見つかり、ゴミ捨て穴からは貝殻が出てきました。久留米藩士の食生活の一端がうかがえます。

Q. 見どころ知りどころは?

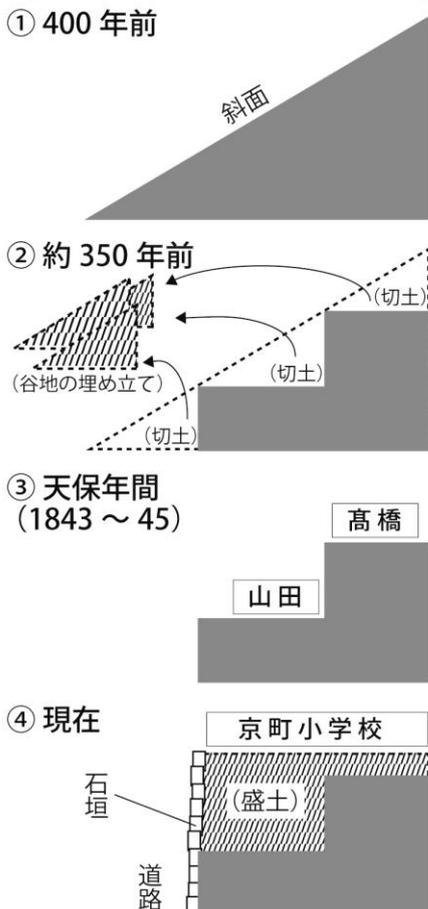
(熊代) 最近では、京町小学校の発掘現場です。学校のある場所は、江戸時代には武家屋敷4軒分の敷地でした。掘り下げていくと、久留米城下町建設に伴う造成のプロセスが分かってきました。

今から400年前、のちに京隈小路となる一带は、丘陵と谷地になっていました。有馬豊氏の城下町建設の中で、斜面を切土し、段状に屋敷地を造成して京隈小路ができました。また、造成によって出た土砂は、付

京町小学校周辺図



開発の歴史 (イメージ)



近の谷地の埋め立てに使われたことも分かりました。

近代になって、段状地に盛土して平地とし、その上に小学校が建ちました。地層が語る開発の歴史です。

* 近所で発掘調査が行われていたら、ちよつと気にかけてみてください。遺跡の見どころを垣間見ることができるとは限りません。

(聞き手・市文化財保護課 穴井)